福祉文教常任委員会　視察報告書　　令和8年8月5日（水）～8月7日（金）　山形県

福祉文教常任委員会　中村　政義

1　高畠町議会
「オーガニック給食・オーガニック宣言について」
オーガニック給食は食材費が高くなりやすいため、給食費や自治体の負担が増える事がある。必要な量を安定して確保することが難しい、供給が不安定になる場合がある。品目によっては有機食材の調達が難しく、献立の自由度が下る。こういったデメリットをどう取り組んでいるのかを、注目していましたが、実際には有機農産物給食は有機米の学校給食としては、生産者団体に供給余力がないということで、3日となっている。地産地消という面では、箕輪町のほうが進んでいると感じた。

2　鶴岡市　社会福祉法人月山福祉会
「農福連携・就労相談窓口の取り組みについて」
農福連携については、ここ2・3年いくつもの自治体を視察してきましたが、同じ仕事を年間通して継続していくことが難しい。山形県も長野と同じで、季節によって寒暖差が大きいため、どのように対処しているのかが興味深い内容でした。しかし、同じ仕事を年間等して行うことは、やはりできないため、冬季感間は、休業となってしまうようでした。

3　鶴岡市　バーンフュージョンソライ
「農福連携と教育事業について」
夏休み期間と言うこともあって大変多くの来場があって驚いた。昨年より子どもの入場は、無料となった。子どもが無料でもそうした事によって、人数が増加していることで、それに付き添う親の入場料が増えれば、総額的には変わらずに行けるといった話があった。行政からは、高額の支援がなくても、運営していることには感心した。

4　酒田市議会
「不登校支援メタバース空間構築などの取り組み」
個々の児童状況に合った支援を行えるよう努めて、教育相談員やスクールカウンセラー等で対応、しかしここ3年間で、小学校低学年でも増加に転じているようだ。子どもが悩みの相談ができるように、不登校支援メタバースの取り組みが始まったようだ。同じような悩みを持つ子どもどうしの交流ができることを考えてのことであったようだが、どの子が不登校なのか、状況を把握するのが難しく、メタバース空間への入場者がまだまだ少ない状態であった。課題は多いようであった。

全体を通じて
行程がハードであった。思っていたのとは違っていたことが多かった。